

令和3年度
全国学力・学習状況調査の
結果概要

忠岡町教育委員会

令和3年度 全国学力・学習状況調査 忠岡町結果概要公表について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

- 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
(令和3年5月27日に調査を実施した学校・児童数 大阪府 984校 71,626人)
- 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
(同学校・生徒数 大阪府 470校 67,027人)

(3) 調査の内容

- ①教科に関する調査 ・小学校等 【国語・算数】 ・中学校等 【国語・数学】 ※英語（中学校等）理科（小中学校）は3年に一度実施のため実施せず。
- ②質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

(4) 今年度調査の特徴

- ・令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないこととしたため、本年度は2年ぶりの実施。
- ・可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるよう、例年より約1ヵ月遅れの日程で実施。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度より従来のA問題（知識・技能等）とB問題（活用等）という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更。

(5) 調査の方式 悉皆調査

(6) 調査を実施した忠岡町の学校・児童生徒数

○実施校数

- ・小学校：2校
- ・中学校：1校

○実施児童生徒数

- ・小学校：140人
- ・中学校：143人

公表に関する配慮事項について

令和3年度 全国学力・学習状況調査実施要領に基づき、次の点に配慮し公表する。

- 忠岡町教育委員会は、保護者や地域の住民に対し、町内における教育及び教育施策に関する説明責任を果たす観点から、調査結果を公表する。
- 本調査の目的及び調査結果が学力や学習状況、生活状況の特定の一部分である。
- 学校ごとの児童生徒の学力の結果が明らかになる公表は行わない。
- 本町は、公立中学校が1校であるため、町教育委員会において公表することが、学校単位の公表となるため、中学校の学力の結果は非公表とする。
- 本町の特徴的な課題と改善方策を公表する。

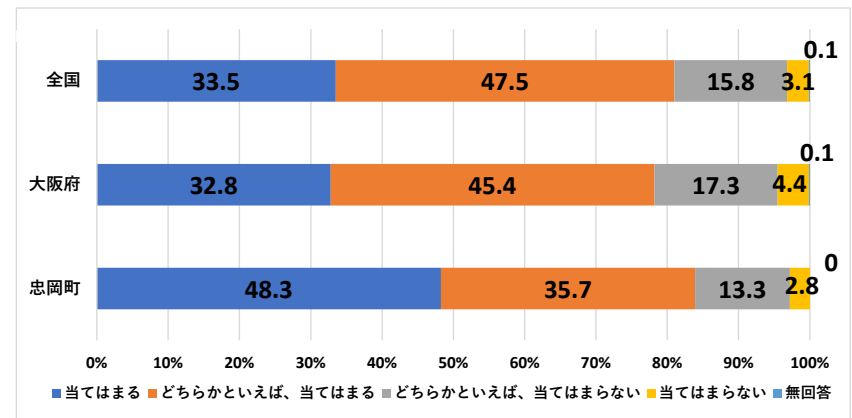
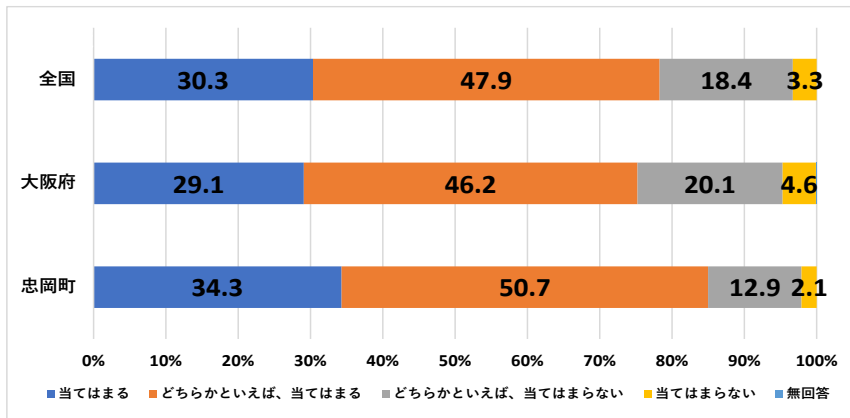
全体の概要について I（学力に関する調査より）

- 【小学校国語】目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することや、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。
- 【小学校算数】図形の構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方や記述することに課題がある。
- 【中学校国語】文脈の中における語句の意味を理解することや、文章に表れるものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことに課題がある。
- 【中学校数学】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町R3年度の重点取り組みにかかる概要～

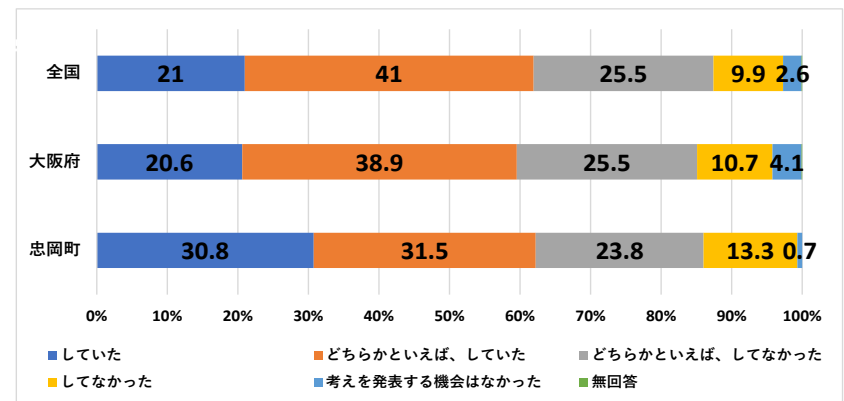
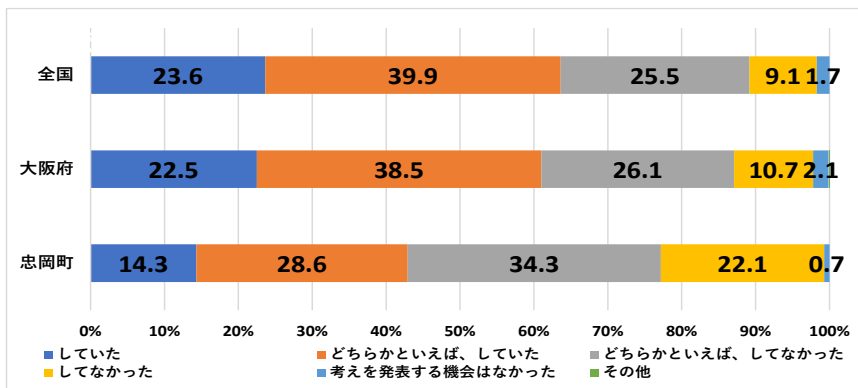
①【自ら考え取り組む子を育てる】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

小学校・中学校ともに、全国・大阪府に比べ、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」において、高い割合を示している。



②【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思いますか」

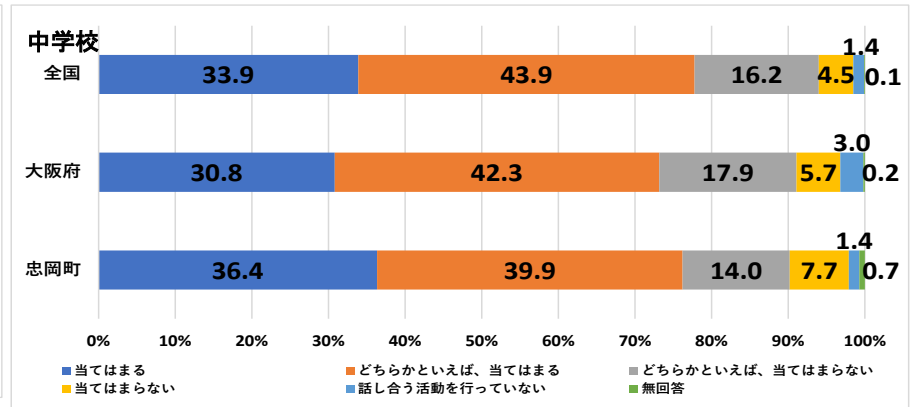
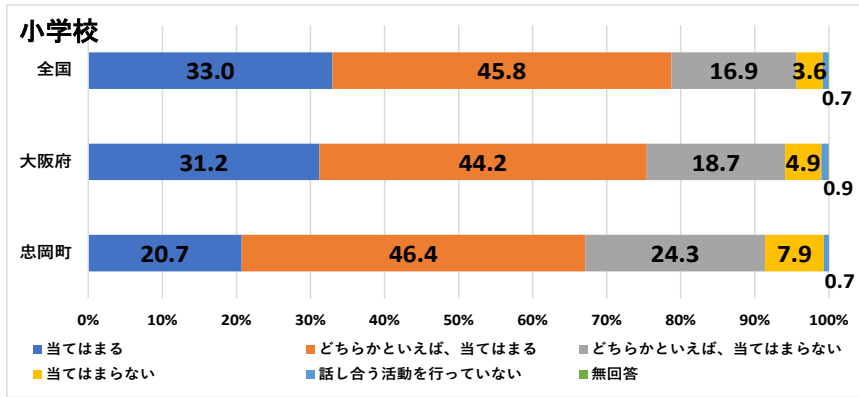
肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」は、中学校において、大阪府に比べ高い割合を示している。小学校に関しては、割合が低く課題である。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町R3年度の重点取り組みにかかる概要～

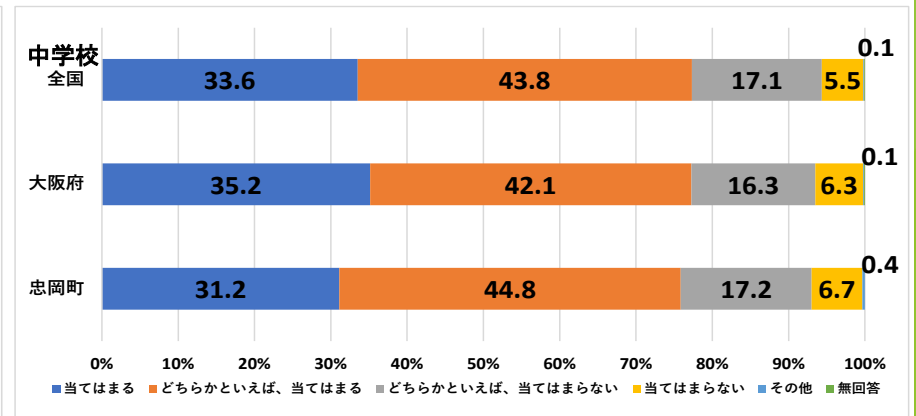
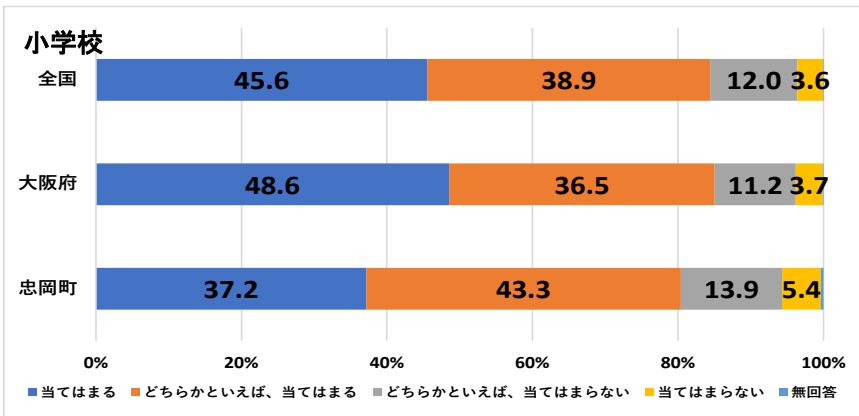
③【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】 「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いませんか。」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」は、中学校において、大阪府に比べ高い割合を示している。小学校に関しては、割合が低く課題である。



④【授業内容がわかる子どもをふやす】 「算数（数学）・国語の授業の内容はよくわかりますか」・・・算数（数学）と国語の合算データ

肯定的評価「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」は、小学校では8割、中学校では7割5分と高い割合であるが、全国・大阪府に比べるとやや低く、課題である。

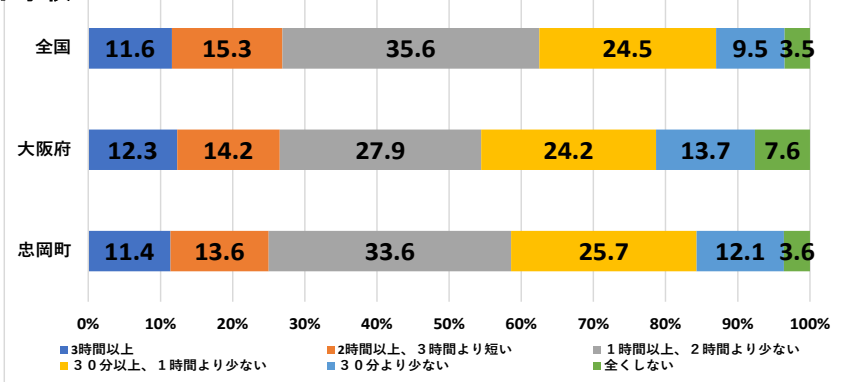


全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町R3年度の重点取り組みにかかる概要～

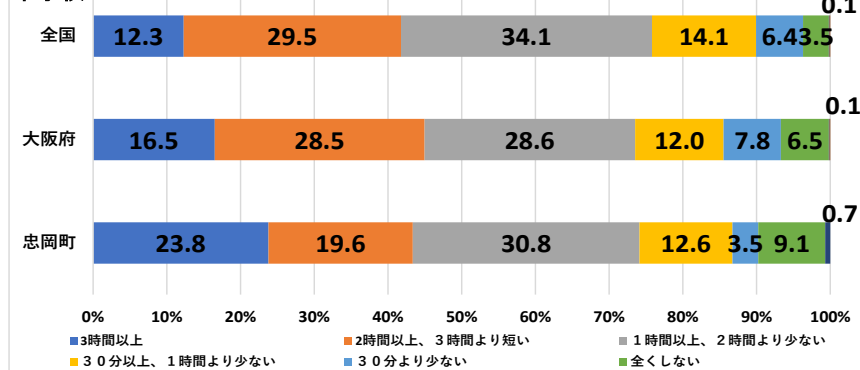
⑤【家庭学習の習慣を育てる】 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」

普段1時間以上勉強している割合は小学校・中学校共に全国・大阪府と比べて大きな差はない。中学校において3時間以上勉強している割合は全国・大阪府と比べて高いが、「全くしない」割合が高く課題である。

小学校



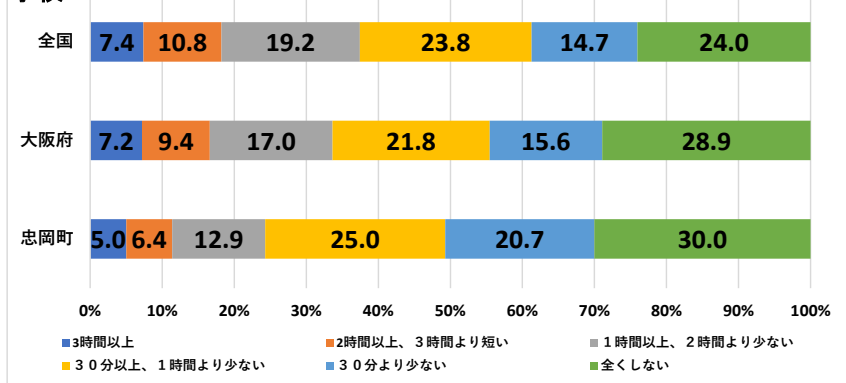
中学校



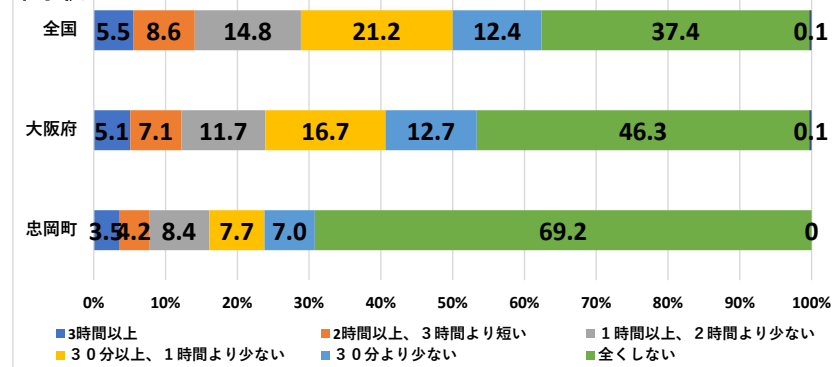
⑥【読書に親しむ子どもたちを育てる】 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」

「全くしない」「30分より少ない」をあわせた割合は、小学校は5割、中学校に関しては7割以上と高く、全国・大阪府に比べ課題である。

小学校



中学校

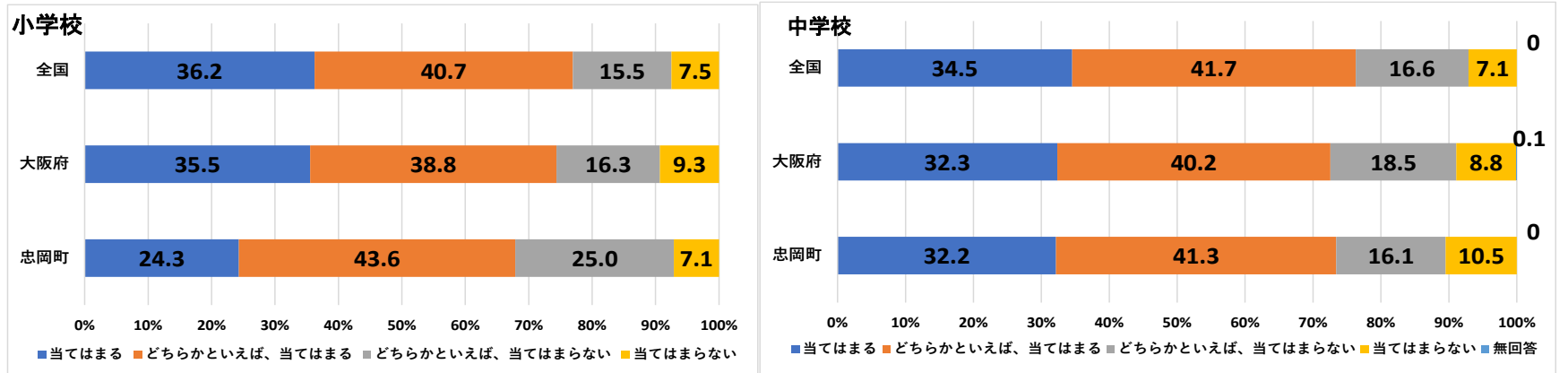


全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より）

～忠岡町R3年度の重点取り組みにかかる概要～

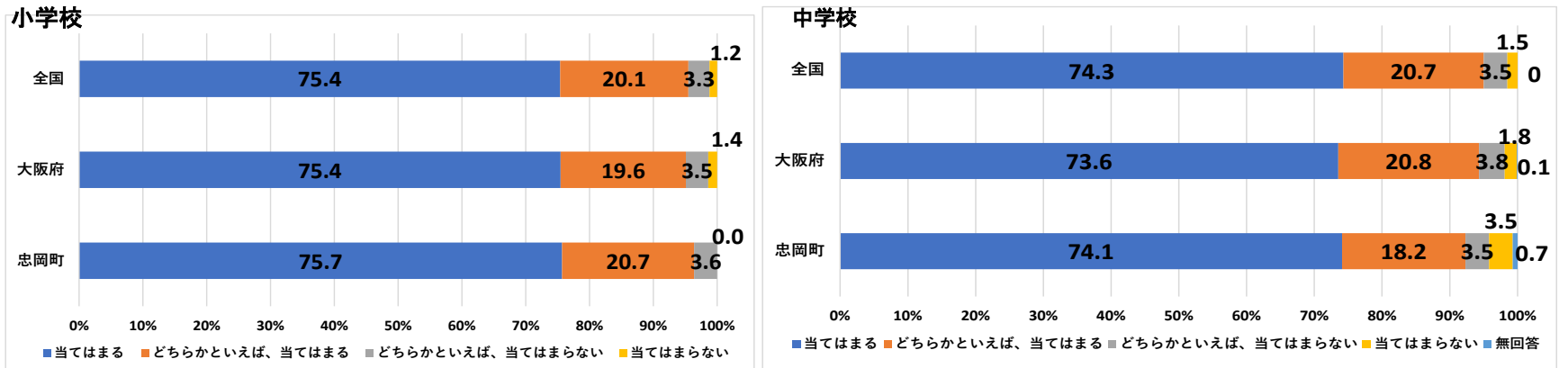
⑦【自分にはよいところがあると思う子どもたちを育てる】 「自分には、よいところがあると思う。」

否定的評価「当てはまらない」・「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた割合が、中学校では26.6%（前回調査より減少傾向）であり、生徒の自己肯定感が高まってきている。小学校では32.1%（前回調査から増加傾向）であり、課題がある。



⑧【人の役に立つ人間になりたいと思う子どもたちを育てる】 「人の役に立つ人間になりたいと思う。」

否定的評価「当てはまらない」・「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた児童生徒が、小学校では3.6%（前回調査から減少傾向）、中学校では7%（前回調査より減少傾向）であり、児童生徒の自己有用感が高まってきている。



忠岡町における学力・学習状況に関する施策

- 忠岡町授業改善推進事業（全小・中学校）・・・小・中学校における教育内容の充実と指導方法の工夫改善を図っています。
- 学ぶ楽しさを育む推進事業（小1・2）・・・小学校1・2年生児童に落ち着いた学習環境の提供と基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っています。
- 忠岡町きめ細やかな指導のための講師配置事業（全小学校）・・・支援学級在籍児童を含めた1学級の合計児童数が法律に定める基準を超える場合、非常勤講師を配置して、少人数学級編制を実施しています。
- 学力向上サポーター配置事業（小3・4）・・・基礎・基本の定着を図り、「確かな学力」を育むためのきめ細やかな学習支援を行っています。
- 小学校読書活動推進事業（全小学校）・・・小学校に司書を配置し子どもたちの興味関心を高め、本に接する機会を増やしています。
- 学力検査CRT（小3・4）・・・児童の基礎・基本における学習のつまづきの把握と効果的な指導につなげています。
- 小・中学校児童生徒学校生活意識調査〈Hyper-QU〉（小5・中2）・・・よりよい学級集団づくりに向けた課題を把握することにつなげています。
- 授業力向上支援・・・教員の授業力向上に向けた授業観察、及び指導・助言を行っています。
- 授業力向上のための教員研修・・・教科・領域・校種の枠をこえた授業改善と校内研修の活性化につなげています。
- 忠岡町授業改善に向けての連絡会・・・学力にかかわる情報共有と各校における学力向上を推進しています。
- 小・中学校生徒指導連携会議・・・小・中学校の9年間を見通した取組の共有と連携を推進しています。
- 忠岡町英語教育推進事業・・・小・中学校教員の英語指導力を高めるために、研修等を実施しています。

忠岡小学校

小学校 国語 【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する

考えられる成果

- 文章の内容をとらえながら読む力
- できそうな問題を考えようとする力

正答率 85.7 %
(大阪77.2%、全国77.6%)
無解答率 0.0 %
(大阪0.5%、全国0.4%)

- ・正答率が高く、全国よりも高い。
- ・無解答率が最も低く0.0%

これからの指導の方向性

- ☆文章の全体構成や、場面の展開、内容などをとらえる学習活動を行う。
- ☆場面の展開と、登場人物の心情の変化、行動描写などを関連づけて読む学習活動を行う。

成果が見られる設問

2-1 相川さんが読んだ【資料】の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

小学校 国語 【資料】を読み、何をヒントに、どのような仕組みの物を作り出したのかをまとめて書く

考えられる課題

- 物語の展開をとらえながら読む力
- 条件に合わせてまとめて書く力

正答率 14.3 %
(大阪31.7%、全国34.4%)
無解答率 20.0%
(大阪 4.2%、全国 4.1%)

- ・正答率が最も低く、全国との差も一番大きい
- ・無解答率も高く、全国との差も大きい

これからの指導の方向性

- ☆文章の全体構成や、場面の展開、内容などをとらえる学習活動を行う。
- ☆条件に合わせて、決まった字数内でまとめて書く学習活動を行う。

課題が見られる設問

- 2三 相川さんは【資料】の……部を読み、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましよう。
- 条件
- ヒントになったことと、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書くこと。
 - 【資料】の中の文章と□の面ファスナーの仕組み「から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

小学校 算数 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く

成果が見られる設問

4(3) 12mのテープと30mのテープもあります。
たくみさんたちは、12mは30mの何倍かについて考えています。

30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

考えられる成果

●今まで苦手としていた、○○さんの説明と同じように書く問題を何問か行い、少し考えれば解けることを理解した。

正答率 57.1 %
(大阪50.3%、全国51.5%)
無解答率 14.3 %
(大阪 9.7%、全国10.3%)

・正答率が全国よりも高い。

これからの指導の方向性

- ☆長文を読んで解く問題を苦手としていたが、同じ様な問題を解くことにより、正答率が上がった。問題のポイントを理解し解けるように練習を行う。
- ☆自分の考えが伝わる様に、グループ学習を通して練習を行う。

小学校 算数 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題内容を理解し計算することができる

課題が見られる設問

3(4)ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書室であまり借りなかった114人に着目しました。114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けてグラフに表しました。ひよりさんたちは、グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。そうたさんとあやのさんは、グラフの中の4つの項目について「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。グラフについて5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

考えられる課題

●問題が2ページにわたっていて、問題の内容を理解できていない。

正答率 42.9 %
(大阪 51.8%、全国 52.0%)
無解答率 37.1 %
(大阪 9.9%、全国 10.3%)

正答率が1番低く、正答率、無回答率の全国との差が1番大きい

これからの指導の方向性

☆グラフを扱う単元で練習問題を行うだけでなく、グラフの読み取りについての問題もくり返し練習していく。

☆同じ問題で、教師が読んで発問すれば解ける問題も少なくない。できない場合は2, 3回くり返し読んでみるように意識させる。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間も含まれます。)

考えられる課題

●宿題以外の授業の復習の不足

	本校	大阪平均	全国平均
3時間以上	2.9 %	12.3%	11.6%
2～3時間	17.1%	14.2%	15.3%
1～2時間	40.0%	27.9%	35.6%
30分～1時間	20.0%	24.2%	24.5%
30分未満	20.0%	13.7%	9.5%
全くしない	0%	7.6%	3.5%

これからの指導の方向性

- ☆自主学習(自学ノート)について再度取り組み方を意識づける。
- ☆自分の興味ある事、気になる事、また、不得意な教科等に取り組む。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

考えられる課題

● 全く読書をしない児童が約1/4
(大阪28.9%全国24.0%)

	本校	大阪平均	全国平均
2時間以上	0%	7.2%	7.4%
1～2時間	8.6%	9.4%	10.8%
30分～1時間	11.4%	17.0%	19.2%
10分～30分	34.3%	21.8%	23.8%
10分未満	20.0%	15.6%	14.7%
全くしない	25.7%	28.9%	24.0%

これからの指導の方向性

☆読書の楽しさ、面白さに気づくよう、週に1回の図書時間をさらに充実させる。また、朝学習の時間に読書の時間をとる事も検討する。
☆図書室の本を充実させる。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(32)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる課題

●工夫して発表していた、いなかった、ではなく、発表していなかったと思われるので、発表しやすい環境を作る必要がある。

	本校	大阪平均	全国平均
発表していた	17.1 %	22.5%	23.6%
どちらかといえば、発表していた	34.3%	38.5%	39.9%
どちらかといえば、発表していなかった	42.9%	26.1%	25.5%
発表していなかった	5.7%	10.7%	9.1%
考えを発表する機会はなかった	0.0%	2.1%	1.7%

これからの指導の方向性

☆遠慮がちな児童、発表するのが不得意な児童が多いと思われる。少しずつでも発表しやすいクラスの雰囲気を作る。

☆自分の考えがうまく伝わるように考え、グループ内で話し合ったり発表する機会を増やす。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(37)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

考えられる課題

●肯定的回答でない児童が1/4いる。

	本校	大阪	全国
当てはまる	22.9 %	31.2%	33.0%
どちらかといえば、当てはまる	51.4%	44.2%	45.8%
どちらかといえば、当てはまらない	22.9%	18.7%	16.9%
当てはまらない	2.9%	4.9%	3.6%
学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0.0%	0.9%	0.7%

これからの指導の方向性

☆グループで話し合い、交流する時間を増やす。

☆話し合いが不得意な児童も、友達の話聞くことによって考えを深めたり、広げたりできることを理解させる。また、少しでも自分の意見を友達に伝える努力をさせるようにする。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(7) 将来の夢や目標を持っていますか

考えられる課題

● 否定的回答の児童が約1/3もいる。

	本校	大阪平均	全国平均
当てはまる	42.9 %	58.8%	60.2%
どちらかといえば、当てはまる	25.7%	19.7%	20.1%
どちらかといえば、当てはまらない	14.3%	11.1%	10.8%
当てはまらない	17.1%	10.4%	8.9%

これからの指導の方向性

☆ 将来の夢や目標を持っていない児童が全国平均等と比べて2倍ぐらいいる。キャリア教育を充実させて、将来の夢や目標、なぜ学習をするか等を考えさせ、学校生活をより充実したものにし、夢や目標を持たす。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(33)5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

考えられる成果

●肯定的回答が全国平均より高い。

	本校	大阪平均	全国平均
当てはまる	34.3 %	29.1%	30.3%
どちらかといえば、当てはまる	54.3%	46.2%	47.9%
どちらかといえば、当てはまらない	11.4%	20.1%	18.4%
当てはまらない	0.0%	4.6%	3.3%

これからの指導の方向性

☆課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ児童が約9割いる。この授業の雰囲気大切に、教え合いのできる環境を作り、残りの1割の児童も自分で考え、自分から取り組めるように類題等を増やし取り組ませる。

東忠岡小学校

小学校 国語 文を読んで、条件に合わせてまとめる。

考えられる課題

- 文章を読み、概要をとらえる力
- 条件を考慮して、考えをまとめる力

正答率	35.2	%
無解答率	10.5	%

全国と本校の正答率の差が一番大きい(22ポイント)。

これからの指導の方向性

- ☆文章を読んで、概要をまとめる活動を行う。
- ☆条件に合わせて、文にまとめる練習を行う。
- ☆たくさんの友達に自分の文章を読んでもらったり、多くの友達の記事を読んだりするために、口頭での発表だけでなく、ICTも積極的に活用する。

課題が見られる設問

3二 丸山さんは「そうじたん当の人がかたづけければよい」と考える人を説得するために、**西田さんの話**を用いて**文章の下書き**の…部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましよう。

小学校 国語 資料を読んで、条件に合わせてまとめる。

考えられる成果と課題

- 必要な部分を選び取る力
- 条件を考慮して、考えをまとめる力
- 正答率が最も低い、無解答率が6.7%しかいてないのはこれまでの取組みの成果と言える。

正答率	17.1 %
無解答率	6.7 %

正答率は、全問中最も低い

これからの指導の方向性

- ☆ 文章を読んで、必要な部分を抜き取る学習活動を行う。
- ☆ 条件に合わせて、文にまとめる練習を行う。

課題が見られる設問

24 相川さんは、**資料**を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションでどのように使われていますか。次の条件に合わせてかきましましょう。

小学校 算数 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く

課題が見られる設問

3(4) 左のグラフについて、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。項目とそれぞれ割合を言葉と数を使って書きましょう。

無解答率が最も低い

考えられる成果と課題

- 情報量の多いデータから、必要なものを読み取る力
- 一番無回答率が高かった問題とはいえ、8.6%しかいなかったのは、これまで本校で取り組んできた成果と言える。

正答率	45.7	%
無解答率	8.6	%

これからの指導の方向性

☆グラフや資料を読み取る中で、情報量が多いデータから必要なものを選んだり、複数のデータを比較する練習を積み重ねる。そのために、ICTを活用し、視覚的に理解できるように指導していく。

小学校 算数 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の答えと求め方をかく。

課題が見られる設問

2(3)

平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。また、平行四辺形ABCDの面積が何 cm^2 になるかも書きましょう。

正答率が最も低い

考えられる課題

● 図形の特性を理解し、問題に応用する力

正答率	32.4	%
無解答率	2.9	%

これからの指導の方向性

☆ 図形の特性を活かした問題に取り組む。

☆ 平面図形や空間図形の特徴を視覚的にとらえ、理解できるようにICTを活用する。

☆ 自分の考えを論理的にまとめる練習を積み重ねる。そのため、自力解決のあと、友だちに理論的に説明できるような場を設ける。また、条件に合わせて、自分の考えをまとめる練習も必要。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

考えられる課題

● 家庭学習に取り組めていない児童が見られる。

1日あたりの勉強時間が全くしない	4.7%
1時間未満	37.7%

これからの指導の方向性

- ・「全くしない」と回答した児童が見られたので、引き続きその児童への学習支援を続けるとともに、その児童の保護者へ家庭学習の習慣づけを担当から呼びかけていく。
- ・1時間未満の回答率がほぼ全国平均と同じであることから、本校で継続して取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」「家庭学習の手引き」の取り組みを持続させ、児童への指導、保護者への啓発を進め、主体的・計画的に学習する習慣づけを進めていく。
- ・今後はeライブラリを使用する家庭学習の機会もよりつくれるよう、家庭との連携を図っていく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

考えられる課題

- 30分以上読書する児童が少ない。
- 読書の習慣が身につけていない。

1日あたりの読書時間が	
全くしない	31.1%
10分より少ない	20.8%
10分～30分	22.6%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「目指せ！読書100冊」や「朝読書」の取り組みを今後も継続し、読書に対する意欲を高めていく。それとともに、より読書に関心を持って取り組めるような指導・取り組みを考えていく。
- ・本校が取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」に今後も継続して取り組み、より家庭での読書に対する意識を児童・保護者ともに高められるよう、啓発を進めていく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(32)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる課題

- 自信をもって、自分の考えを伝える。
- 理論立てて、説明できる力を身につける。

「発表していた」が
14.2%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「授業の構造化」を継続し、自力解決したことを主体的に発表し、話し合い活動を行う時間を確保していく。
- ・自分の考えを論理的にまとめる力をつける。
- ・授業での話し合う活動において、取り組む過程や姿勢を大切に評価していくことで、積極的に話し合い活動に参加し、自らの考えを深めたり、広げたりしようとする意欲を高めていく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(37)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

考えられる課題

- 話し合い活動に積極的に取り組もうとする意欲を持たせる。
- 自分の考えを深め、広げられた実感を持たせる。

- 1 「当てはまる」が 20.8%
- 2 「どちらかと言えば当てはまる」が 44.3%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「授業の構造化」を継続し、めあてや見通しを持って授業に取り組み、ふり返りにより次の学習へのつながりを持たせることで、主体的に話し合い活動に取り組もうとする意欲を高めていく。
- ・学び合いにより他の児童との比較により自らの意見を深める機会を持つとともに、互いに認め合い、協力していく姿勢を育てる指導を進めていく。
- ・自分の考えを伝えたり、他者の考えを知る手立てとして、ICTを積極的に活用していく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(5) 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

考えられる課題

● 2時間以上ゲームやスマートフォンをする児童が多い。

1日あたりの時間が	
4時間以上	24.5%
3時間以上	14.2%
2時間以上	27.4%

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」にゲームや、スマートフォンの使用についての項目を新たに入れて、家庭でのゲームやスマートフォン等に対する意識を児童・保護者ともに高められるよう、啓発を進めていく。
- ・学級でも、ゲームのし過ぎが、日々の生活や心身に悪い影響を与えることを指導していく。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(6)自分には、よいところがあると思いますか。

考えられる課題

●自己肯定感の低さによる、課題に立ち向かう意欲の低さ

- 1 「当てはまる」が 25.5%
- 2 「どちらかと言えば当てはまる」が 40.6%

これからの指導の方向性

・学習や生活、行事などにおいて、児童が到達感を実感できるような適切な課題を設定し、それに向けての達成や努力に対して積極的に「ほめる」指導を進めていく。

・児童の自己肯定感を高めていくために、児童ができていることをしっかりと評価し、失敗よりも成功に向けて前向きに取り組める子、自らの課題に敢然と立ち向かえる子の育成を目指す。

忠岡中学校

中学校 国語 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える

考えられる課題

- 会議の中で、登場人物の発言を正しく理解する
- 発言の流れをつかみ、自分の意見を相手に伝えるように、文章表記をする。

正答率	41.3%
全国	57.1%

正答率が、全国の値と一番差があった問題です。(差 -15.8%)

これからの指導の方向性

- ☆論説文の中で、段落別に要点はなにかを正しく理解し、短い文章にまとめる学習を継続的に取り入れる。
- ☆問われている質問に対して、的確に答える、質問応答の時間を授業の中に取り入れる。

課題が見られる設問

1 三 西中学校の大野さんの発言⑥のあとで、参加者の一人が発信します。あなたは、誰がどのようなことについて発言するとよいと考えますか。・・・条件1と条件2に従って書きなさい。

条件1 話し合いの一部の①から⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいのかを書くこと

条件2 条件1のように考えた理由を具体的に書くこと

中学校 国語 相手や場に応じて敬語を適切に使う

考えられる課題

- 尊敬語、謙譲語、丁寧語をそれぞれどのような場面で使用するか。

正答率 24.5%
全国 40.3%

正答率が、全国の値と一番差があった問題です。(差 -15.8%)

これからの指導の方向性

- ☆ 尊敬語、謙譲語、丁寧語に変換される単語をすべて暗記させる。
- ☆ どのような場面で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を使用するのかを理解させる。
- ☆ 日常生活の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して、使用することを指導する。

課題が見られる設問

3 丁寧語
2 謙譲語
1 尊敬語

④ 行く」とありますが、行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までのの中から一つえらびなさい。

中学校 数学 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

課題が見られる設問

6(1)四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18の時、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く。

(1)四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18の時、4つの数の和は4の倍数になることが成り立つかどうか下のようには確かめました。□にあてはまる式を書きなさい

$$12、13、17、18の時、12+13+17+18=60$$
$$60=\square$$

考えられる課題

●場面・状況をよみとり、演算を判断・決定すること

正答率 75.5%
全国 83.9%

いろいろな問題の中でも、全国正答率と比較すると一番差があった問題である。(差 -8.4%)

これからの指導の方向性

式を立てるにあたっては、まず問題文の意味を理解すること、例題から四則計算のどれにあたるか予測される解答を、いくつか考えることが大切である。また予測した解答が文章の問題文に適しているかを確認することを指導する。

中学校 数学 データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

課題が見られる設問

8(3)「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由をグラフの特徴を基に説明する。

(3) 気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」そのように主張することができる理由を気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

考えられる課題

- グラフを正しく読み取る力と読み取ったデータを分析する力をつける

正答率	4.2%	無解答率	44.1%
全国	11.1%	全国	32.2%

正答率・無解答率共に全国と比較して差がある問題

これからの指導の方向性

・日常生活に密着した問題であるために、理科的な知識も取り入れながら考えていく必要がある。校内でも教科横断的な連携をしながら、グラフの読み取り方、分析整理、表現までの一連の流れを継続的に指導の中に取り入れていかなければならない。

中学校 数学 与えられたデータから中央値を求めることができる

成果が見られる設問

5 下の記録は、ある中学校の男子生徒10人が反復横跳びを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

43 46 46 52 53 55 56 56 56 57
(単位 回数)

反復横跳びの記録の中央値を求めなさい

考えられる成果

● 中央値という数学的語彙と求め方を理解している。

正答率	90.2%	無解答率	1.4%
全国	84.5%	全国	1.0%

正答率の割合が全国を上まっている。

これからの指導の方向性

・ 数学的な語彙を理解していなければ、何を求めなければいけないのかも分からない。さまざまな分野の数学的な語彙の意味と求め方を正確に理解できるように指導する。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

考えられる課題

●「全くしない」が全国の割合を上まっている

忠岡中	3時間以上	24.0%	2時間以上～3時間未満	19.2%
全国	3時間以上	12.3%	2時間以上～3時間未満	29.5%
忠岡中	30分より少ない	4、1%	全くしない	8、9%
全国	30分より少ない	6、4%	全くしない	3、5%

これからの指導の方向性

☆自分の将来の目標がしっかり決まれば、おのずと勉強にも目的意識ができ、集中した勉強時間が確保できると考えている。1年時よりキャリア教育を通して、将来の夢・目標、勉強する意味の意識づけが大切であると考えている。また全くしない生徒の底上げとして、少しでもいいので勉強をする習慣をつけさせるために、宿題を意図的に出し、評価とリンクさせていきたい。

児童・生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

考えられる課題

● 読書を全くしない生徒の割合が全国を大きく上まっている。

本校： 2時間以上	3、4%	1時間以上2時間未満	4、1%
全国： 2時間以上	5、5%	1時間以上2時間未満	8、6%
本校： 30分以上1時間未満	8、2%	10分以上30分未満	7、5%
全国： 30分以上1時間未満	14、8%	10分以上30分未満	21、2%
本校： 10分より少ない	6、8%	全くしない	69、9%
全国： 10分より少ない	12、4%	全くしない	37、4%

これからの指導の方向性

☆読書ばなれが、テストでの読解力の低下や日頃の人間関係のコミュニケーション不足に影響を与えている可能性があることを生徒に伝え、少しずつでも読書の魅力を伝え読む楽しさをわかってもらえるような取り組みを進めていく。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(32)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる成果

●自分の考えを発表する機会があり、表現力の向上につながる。

本校：発表していた	30、1%	どちらかといえば発表していた	32、2%
全国：発表していた	21、0%	どちらかといえば発表していた	41、0%

本校：発表していなかった	13、0%	どちらかといえば発表していなかった	24、0%
全国：発表していなかった	9、9%	どちらかといえば発表していなかった	25、5%

これからの指導の方向性

☆「発表していた・どちらかといえば発表していた」を合計した割合は62、3%、全国の割合の62、0%を上まった結果となった。道徳科からはじまり、各教科で班活動を通して話し合う機会が増加したこと、自分の意見をまとめたり、班の仲間と交流することで自分の考えが深まったりしたり、また自分の意見を発表する機会が増えた結果だと言える。これからも、授業の中での言語活動の充実をめざして、日々研究を推進していきたい。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(37)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

考えられる成果

●思考力・判断力の向上

本校： 当てはまる	37、0%	どちらかといえば当てはまる	39、0%
全国： 当てはまる	33、9%	どちらかといえば当てはまる	43、9%
本校： 当てはまらない	7、5%	どちらかといえば当てはまらない	14、4%
全国： 当てはまらない	4、5%	どちらかといえば当てはまらない	16、2%

これからの指導の方向性

☆話し合う活動の活性化のためには、教科担当者が課題解決的な問いを投げかけること、また生徒一人ひとりが自分で考える時間を確保すること、他の人の意見をしっかり聴くことが大切である。すべての教科でこれらの基本的なことを共有して、これからはICT機器を上手く活用しながら、言語活動の充実のために日々研究を推進していく必要がある。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(42)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

考えられる成果

●思考力・表現力の向上。

本校： 当てはまる	63、0%	どちらかといえば当てはまる	28、1%
全国： 当てはまる	48、8%	どちらかといえば当てはまる	37、4%
本校： 当てはまらない	2、1%	どちらかといえば当てはまらない	6、2%
全国： 当てはまらない	3、3%	どちらかといえば当てはまらない	10、2%

これからの指導の方向性

「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合が91.1%、全国の割合86.2%を上まわっている。特に「当てはまる」割合は+14.2%と大きく上まわる結果となっている。道徳の時間の言語活動の活性化が、他の教科での班活動に好影響を与えていると考えられるので、これからも引き続き生徒の言語活動の活性化にむけての授業者のスキルアップ、中心発問の研究、授業展開の研究を推進していきたい。

児童・生徒アンケート

成果が見られる設問

(49)国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

考えられる成果

●表現力の向上

本校： 当てはまる	41、8%	どちらかといえば当てはまる	37、7%
全国： 当てはまる	28、6%	どちらかといえば当てはまる	46、0%
本校： 当てはまらない	5、5%	どちらかといえば当てはまらない	15、1%
全国： 当てはまらない	4、6%	どちらかといえば当てはまらない	20、6%

これからの指導の方向性

☆「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」の合計の割合は79.5%で、全国の割合の74.6%を上まわっている。何ごとも、「なぜ、どうして?」と疑問を持つことはとても大切である。また自分の考えの根拠を論理的にまとめ、文章表記して相手に伝えることは社会に出てからも必要なスキルである。このことを押さえつつ、これからもいろんな単元で、取り組みを継続していく。